

II. 実践研究の報告

1. もみじ保育園（岩手県 水沢市）

1. 研究代表者

園長 熊谷 敏子

2. 保育園の所在地

岩手県水沢市字久田 32-6

3. 定員数・入所児童数

定員 45名 入所児童 61名

4. 保育園紹介

子育てと就労の両立を願う親が増え、出生率は減ってきていても、保育需要は年々高まってきており、水沢市に於いても年度当初から市内保育所入所定員を超える入所希望者がいる状況です。この為、子育てで困っている多くの親からの保育所設立の要望があり、水沢市でも民間活力に配慮し、平成13年8月、社会福祉法人による保育所設立にいたりました。

水沢市内中心部に位置し、市内最大規模の小学校に隣接しています。比較的自然に恵まれ、周囲には公園、神社などもあり、子ども達の育つ環境としては、とても恵まれています。対象は0歳から3歳です。

- ・家庭的で親しみのあるくつろいだ雰囲気の中で、子どもの様々な要求を満たし、生命の維持及び情緒の安定を図る。

- ・子どもが心身共に健康で安全な生活を過ごせるよう留意しながら色々な遊び（体験）を通じて豊かな感性を育て、創造性の芽生えを培う。

この2点を目標として掲げ、保育を行っています。

5. 延長保育、一時預かり保育を始めた動機

近年、女性のめざましい社会進出、就労形態の多様化等により、労働時間や通勤時間などの事情で、開園当初から延長保育実施の要望が強く、午後6時から午後7時までの延長保育に取り組んでいます。

子どもたちをとりまく環境の変化や核家族化の進行により、世代間の育児伝承や地域間での交流が減少し、子育てに不安をもつ親が増えるなど、育児機能が低下してきています。このような現状の中で、保育園が提供できる育児機能を十分に活かし、子育てを応援しながら望ましい子どもの健やかな成長を支援し、保障していきたいとの考えから開園当初より一時預かり保育を行っています。

研究の目的

延長保育を利用する子どもたちは、比較的朝の登園時間も早いことから、心身への負担がかなり重いものとなっています。又、働く保護者の方々も長時間労働の後の家事、子育てと多忙な毎日を送っています。このような現状の中で、私たち保育

園ができる事は何か。目の前で友達が次々帰っていく姿を見て、寂しさを感じるこ
とがないように、保育士の関わりと見守り、遊びの充実、保護者が安心して迎えに
来ることができる環境、これらを今一度見直し整備する中で、長時間保育であって
も安心して過ごし、家庭生活の中で親と子がゆとりをもち、ふれあいを多くもてる
ような延長保育を目ざし、研究をすすめました。

一時預かり保育を利用する親子にとって、不安はとても大きいものとなります。
その不安を少しでも和らげ、安心して子どもを預けることができる環境、子どもが
不安なく遊びを楽しみ、保育士や友達とふれあう事ができる保育園であるために、
保護者の精神面を支えながら、良き理解者として子育てを応援していくことを目的
に研究に取り組みました。

研究概要

今までの延長保育、一時預かり保育を見直し、環境や保育内容について話し合い
をもち、子どもの最善の利益が保てるよう検討しました。又、保護者の意見、要望
等も取り入れる中で、保育園と保護者との信頼関係が十分保てるよう、アンケート
に協力していただき、考察しました。

研究スタッフ

園長 熊谷 敏子
主任保育士 千葉 良重
保育士 今野 芳枝 池 るり子 高橋 美恵子 佐藤 真紀子
栄養士 及川 麻梨絵

研究の方法

- * 延長保育、一時預かり保育に適した環境について話し合う。
- * 延長保育、一時預かり保育を利用している子ども一人一人の気持ちを受け止め、
保育内容や関わりを考える。
- * 延長保育、一時預かり保育を利用している保護者の気持ちをくみ取り、心のケ
アや関わりを考える。
- * 保護者へのアンケート調査を行う。
『子どもも保護者も安心できる延長保育、一時預かり保育をめざして』
- * アンケート結果から、分析、考察
- * アンケート結果をもとにしての実践、まとめ、考察、今後の課題

研究会議の状況

9月初め園内研究会に於いて、職員による研究打ち合わせ

- ・ 研究事業の内容と今後の方向性
- ・ アンケート内容の検討

9月半ば保護者へのアンケート配布 9月から11月事例をもとにした実践研
究 10月初めアンケート集計、まとめ 10月半ば園内研究会

- ・アンケート結果から見る問題点、改善すべき点
- ・保護者の心情についての話し合い
11月半ば園内研究会
- ・前回研究会から見直された内容についての経過
11月末園内研究会
- ・保育実践のまとめ
- ・今後の課題
- ・研究を終えての反省、意見
延長保育研究の実践
☆9月初め スタッフによる研究打ち合わせ
- ・おやつについて
利用人数は、10名を超えるものの、比較的迎えの時間が6:30前後と早いことから、おやつの必要性について、アンケートをもとに、検討することにしました。
- ・延長保育の環境について
利用している子どもは、6時を過ぎると1つの部屋に集まり、0歳から3歳までが一緒に過ごします。歩き回る子、生後3ヵ月の子どもが共に過ごすことで、安全面で問題はないか、遊びに支障はないかを話し合いました。
結果、保育士1名が、1歳を過ぎた子ども達の保育にあたり、保育士2名が1歳未満の子ども達の保育をする事にしました。又、1歳未満児が落ち着いた環境の中で迎えが待てるよう、厚手の移動式畳を使用し、寝返りやハイハイ等、安全で活発に動き回ることができるようにとの案が出ました。
- ・保育内容について
子ども達の遊びを制止する事のないように、遊びを見守り必要に応じて声をかけたり、関わりを持ちながら、安心して迎えを待てるようにする事の重要性を認識し、保育をしていくことにしました。
☆9月末 アンケート配布（資料1）
☆10月初め アンケート集計、まとめ
*延長保育の希望時間について
18:00~19:00 (38名) 18:00~20:00 (4名)
18:00~21:00 (2名) その他 (なし)
*延長のおやつについて
・あった方がよい (38名) ・なくてよい (6名)
おやつの内容について
・果物 (17名) ・菓子 (10名) ・おにぎり等夕食となるもの (11名)
これらを選んだ理由

・夕食の準備の間、空腹の為に機嫌が悪かったり、自分でおやつを出して食べるため、夕飯に差し支えることがあるので、軽いおやつを出して欲しいとの意見が大半でした。19時を超える時には、おにぎり等が良いとの意見もありました。

・おやつはなくて良いとの理由では、夕食に差し支えるから、おやつは決まった時間にしたいからとの意見がありました。

＊家で夕食までにおやつを食べていますか。

・食べている。(29名) ・食べていない(15名)

おやつの内容

・果物・果物・飲み物・パン・乳製品・ご飯・アイスクリームなど

＊延長保育を利用した感想(記入された文章通り)

・安心してお願いすることができ、有難く思います。以前はビデオ等も楽しんでいたようですが、今はお絵描き、ままごと等、遊びにも先生たちの工夫を頂いて、本当に感謝しています。これからも続けていただきたいです。

・延長保育をして、仕事を最後まででき、迎えまでの運転もゆとりができ、助かっています。

・先生方がいつも笑顔で保育していただくので有難いです。遅くなっても1日のことをきちんと知らせてくれるのが嬉しいです。など

＊延長保育に関しての意見、要望(記入された文章通り)

・遅番の先生が翌日登園時に居て下さって、前日の様子を気にかけてくださったり、有難く思います。～20時ですと今より更に仕事に穴を空けずに済むのですが、先生たちの負担が今より大きくなったり、日中の保育が手薄になったりするのではという心配もあります。ボランティアや地域の方々の協力が得られるのであれば良いのですが。

・料金制度について回数制「1回〇円」、1ヵ月単位等選択できると良い。

・延長保育はとても助かると思いますが、7時までの仕事の場合、迎えはどうしても7時を過ぎてしまうので、8時までであればもっと助かるだろうと思います。など

☆10月半ば 園内研究会

＊アンケート結果から見る問題点、改善すべき点

・延長保育のおやつは、必要と感じている人が多く、現在、延長保育を利用している保護者は、全員が必要と感じていました。が、夕食に差し支えない程度の食べ物との意見が大半を占めていたので、おやつの内容について話し合いました。結果、栄養面等も考慮し、果物をおやつに出すことにしました。

・延長保育時間について、午後8時、9時までとの意見がありましたが、親への支援だけで、子どもの気持ちや最良の環境(人的、物的)は保障されてい

るのか、又、職員配置等、問題点は多く、時間をかけて話し合わなければならない問題となっています。

*保護者の心情についての話し合い

- ・仕事の忙しさの中で、子どもを迎えに來れないもどかしさが切々と伝わってきました。又、職員への気づかいもあり、共に仕事を持ち、子育てをしている仲間としての一体感、職員と保護者との信頼関係も生まれてきている事に、喜びを感じました。

☆11月初め 園内研究会

*前回研究会から見直された内容についての経過

- ・おやつについては、果物は子ども達の好きな食材であり、日替わりで違った果物が出ることから、「今日はバナナ？」等楽しみにしている姿が見られました。既製の菓子などより安心でき、夕食にも差し支えないと保護者の方々にも理解をいただきました。
- ・保育環境については、年齢により職員が別れて保育することで、ゆったりと関わることができ、又安全に遊びを楽しんだり、見守ることができるようになりました。

☆11月末 園内研究会 まとめ

*保護者、地域社会等の反応、評価

【子どもも保護者も安心できる延長保育をめざして】進めてきた研究に、保護者の方々も大変協力的で、おやつや、保育内容について意見をいただいたり、見直し後の子どもの様子などを事細かに知らせてくれるなど、保育園と保護者とが一体となって研究を進める事ができました。おやつの見直しにより、夕食の準備がスムーズにできるようになったとの意見もありました。何よりも、迎えに來た時に笑顔で走ってくる我が子を見て、寂しい思いをせず、遊んでいたことに安心し、保育士の話す子どもの1日の様子を聞いて、心和む時を迎えられるようです。

*職員の体制、協力

延長保育では、クラス担当の職員が対応するとは限りません。その為、保育士間での伝達が非常に重要になってきます。連絡事項や、体調の変化など、的確に保護者に伝えることができるように連携をとっています。又、延長保育時間内での子どもの様子や、体調など翌日早朝出勤の職員が対応できるように、日誌を活用し保護者との会話がスムーズにできるようにしています。

*担当職員の意見

- ・延長保育を利用している子どもは、職種により朝の登園も早い子が多いため、親との時間が極端に短いことが気になっていました。親子がふれあう時間が短いからこそ、延長保育でより保育士と関わって遊ぶなど充実させてい

きたいと思いました。又、延長保育がどのようにあるべきかを考える貴重な機会となりました。アンケートを通し、保護者の気持ちや園への希望等も知ることができ、保育環境を整えながら保育の充実を図るとともに、心のケアも充実させたいと思います。

- ・近年、就労する女性が多くなり、職種、職域が拡大され長時間の保育が要望されています。当園でも延長保育を利用する多くは、就労形態が遅い時間までかかってしまうために、利用せざるをえなくなっています。制度や労働時間などの就労環境の整備に立ち遅れていることもありますが、一人一人の子どもがいちばん良いと思われる環境で1日を過ごし、保護者にとっても安心して仕事ができ、子どもとの時間が楽しく過ごしていけるように、この研究を通し見直すことができました。今後この研究で得たことをふまえ、保育に活かしていきたいです。

研究結果のまとめ、今後の課題と展望

延長保育を、今まで単なる日々の保育の延長であり、迎えを待つまでの間一緒に過ごす。と漠然と捉えていたように思います。

この研究を通して様々な側面から延長保育を捉えることで、今まで気づかなかった部分が見え始めてきました。この延長保育内の過ごし方により子どもは帰途に着く車中や夕食の際に、楽しかった園での話をしながら親子の会話も弾むことでしょう。0歳児であっても、この時間を安心してゆったり過ごすことができれば、心が安定し穏やかに過ごすことができるでしょう。

子ども達のその笑顔や、可愛い言葉の中から、親もまた癒され穏やかな気持ちで子どもと接することができるのではないのでしょうか。私たちは降園の際、会話を通してその日の出来事を話し、共に成長を喜び合ったり、時には笑いあったりしながら笑顔で「さようなら」ができるように接しています。

でも、それ以前に子どもや親の心に寄り添い、目に見えない心の支援をしていく事が子育てを応援していく事につながっていくのではないかと感じています。

現在水沢市では、私立保育園協議会 10 園が統一して料金を定めている状況です。(1 ヶ月単位で収入に応じて) この料金制を回数割や 30 分単位など細かく分けることにより金銭的な負担も減り、又保護者もできるだけ早く迎えに来るのではないかと、

又保護者側にもこのような要望があることから、今後私立保育園協議会を通し、働きかけを行っていきたくと考えています。

育児休業や育児時間を利用できる企業が出てきているものの、現実にはまだまだ子育てをしながらの就労環境は厳しいものとなっています。子育てに

2,000 以下 1 名 1,500 円から 2,000 円 1 名

*料金は半日であれば、半額にした方が良いですか。

・はい (11 名) ・いいえ (0 名)

3. 希望する時間帯をお答えください。

・午前 7:30 から午後 5:30 内での希望がありました。仕事の関係上半日を希望する意見もありました。又、少数ながら不規則勤務にあわせ、午後 6 時以降の希望もありました。

4. 園の行事に参加してみたいですか。

・保育参観 (5 名) ・運動会 (3 名) ・お楽しみ会 (3 名)

・親子遠足 (2 名) ・夕涼み会 (2 名) ・秋の遠足 (2 名)

・ひな祭り (2 名)

・行事が前もってわかれば、すべて参加させたいです。

5. 保育園に期待していることはどのような事ですか。(記入された文章通り)

・幼稚園のような教育的な部分も加わるともっと良いなあと思います。

・友達と仲良く遊ぶこと。

・親の都合で預けている時間なので、子どもが寂しくないよう先生方に接して欲しいです。

・家だとしても自分中心でわがままになってしまうことがあるので、集団生活での厳しさと楽しさ。

・外でのびのび元気に遊ばせていただければいいなあと思っています。

6. 利用してみても感想 (記入された文章通り)

・保育園に行くようになり、子どもの著しい成長 (言葉だけでなく社交性、精神面) が見られとても有難く思っています。

・色々な所に散歩に連れて行っていただいているので大変助かります。

・先生方があたたかい方ばかりなので、安心して預けられます。また、ノートにその日の様子を記入していただけるのも有難いです。

・子育てに関して気が楽になりました。

・子どもが楽しいと感じていることが何より嬉しく安心して子どもを預けていられます。

・子どもが行く日を楽しみにしているので、行かせて良かったです。

7. 意見、要望 (記入された文章通り)

・時間をもっと長くして欲しいです。

・できれば行事に参加させたいのですが、人数の関係で難しいでしょうか。

・料金が上がり、以前より気軽に預けられなくなりました。これについて再度検討していただきたく思います。

☆10 月半ば 園内研究会

アンケート結果から見る問題点、改善すべき点 等

・現代社会を尊重するかのように、この田舎町でも子育てに不安や憤りを感じ、一時預かり保育を利用するケースがある事が分かりました。保育園が支援できる育児機能を十分に活かし、保護者の不安やストレスを解消できるように取り組みながらも、子どもと親との関わりを重視しながらそれぞれが信頼関係をもてるような保育が必要です。在園している子どもの保護者に比べ、保育園に対し育児相談をする件数が少ないことも信頼関係が確立していない現われとなっています。

行事への参加希望も多く、我が子がどのように友達と接しているのかや家とどのような違いがあるのか、園行事にはどのようなものがあるのかといった関心が地域の方々にあることも分かり、可能な限り、行事に誘う事で子育ての楽しさ、子どもの成長を知ってもらおうということになりました・

☆11月初め 園内研究会

前回研究会から見直された内容についての経過

一時預かり保育を利用している家庭全戸に連絡帳を使用し、子どもの一日の様子や受け答えなどができるようにしました。又、お迎えの際は、言葉で子どもの姿を知らせながら、保護者の不安を少しでも取り除くことができるようにしました。それにより、子どもの家での様子を話してきたり、悩みを相談してくるなど、保護者側から積極的に関わろうとする姿が見られてきました。園行事に積極的に参加してもらうように、園日よりやクラス日よりで日時を知らせ、在園している子ども達と同じように行事に参加できるよう、取り組みました。

参加した園行事

・秋の遠足

子どもと職員のための遠足です。手作り弁当を持参し、バスに乗って“ふれあいの丘公園”へ。友達と初めて乗るバス、皆で食べるお母さん手作りの愛情弁当、広い遊び場。子ども達は1日中目を輝かせ、楽しさで興奮冷めやらぬ様子でした。

・地域交流収穫祭

当園で作っている“なかよしのうえん”の収穫祭。地域の老人クラブの方々にお手伝いいただき、さつま芋等を収穫しました。

〈連絡帳より〉

芋掘り会での出来事が思い出に残っているらしく、「お芋掘ってきたよ、これくらいの」等と教えてくれます。

・お誕生会

全園児、全職員で月のお誕生児をお祝いします。都合がつく保護者の方に

は是非参加していただくように声をかけています。11月には、一時預かり保育を利用しているお母さん2名が参加してくれました。

〈連絡帳より〉

お誕生会に参加させていただきありがとうございました。誕生日を迎えた子の紹介があった時点で、感動して泣いてしまいました。こうして毎月お誕生会を開いていただいているのだなあと思うと、本当にありがたいです。

・お楽しみ会

日々、保育の中で楽しんでいる歌や踊りを保護者の方々や、地域の方々の前で披露します。その後、ちょっと早いサンタクロースが登場し、会場は盛り上がりました。一時預かり保育を利用しているうち、4名が参加し、家族と一緒に楽しいひとときを過ごしました。

〈連絡帳より〉

お楽しみ会では大変お世話になりました。ありがとうございました。

ステージの下から子どもの姿を見られなくて残念でしたが、大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんたちの踊る可愛い姿に、日頃の疲れが吹き飛ばすひとときでした。いつか〇〇もあのようにできるように成長してくれるだろうと思いつつながら…………。

お楽しみ会に参加させていただきありがとうございました。一緒に見に行った祖父、曾祖母もとても感激していました。パパも娘の晴れ舞台を見たかったらしく、来年は必ず行きたいと言っています。準備等大変だったと思います。お疲れ様でした。

☆園内研修会 事例まとめ

・Y (H 13. 9. 生まれ) 第1子

〈一時預かり利用理由〉

母親の妊娠による体調不調

〈9月29日〉

3歳になったばかりのYちゃんは、保育園に入る事も、お母さんと一緒に部屋に入る事にも抵抗がありました。お母さんに抱かれ室内に入り、おやつを食べました。母親が帰る姿を見ないように関わり、本人も全く気づかず、ブロックで遊んでいましたが、ふとあたりを見回し、お母さんがいないことに気づき泣き出しました。会話が上手にでき、家も分かっていることから保育士の手を引き家に帰ろうとします。お昼は食べず、バナナを手で12時お母さんの迎えのもと、降園しました。

〔今後の関わり〕

母親の体調不良で、精神面で不安定になっている Y ちゃんが、園の環境に慣れる事も大切ですが、お母さんの体調や精神面をケアすることができるよう、信頼関係を深めていきたい。母親の心身の安定により、Y ちゃんも安心して過ごせるようになるのでは。

〈9月30日〉

2日目の一時保育。家では「保育園に行く」と張り切って出てくるようですが、いざとなるとなかなか部屋に入れません。お母さんも一緒に室内に入り、安心して遊び始めたところで、そっと帰りました。やはりお母さんが帰ったことに気づくと泣き始めます。おんぶする事で落ち着き、紙やはさみを見ると興味を持って自分から「やる」と言い参加しました。それ以降は少しずつ笑顔も見え始め、遊ぶ姿が見られました。昼食はわずかながら食べ始めましたが、食事中一口入れてはウロウロと立ち歩きの繰り返しで、まわりの子は気になっていたようです。

[今後の関わり]

保育士や環境にわずかでも慣れてきたことを保護者に知らせ、共に喜び合いながら Y ちゃんを見守っていきたい。1対1でゆったり関わりながら、楽しく落ち着いた雰囲気の中で食事がとれるように配慮することを職員間で話し合いました。

〈10月初め〉

お母さんの体調が非常に悪く、笑顔も見られません。Y ちゃんは、笑顔で登園しましたが、お母さんが子どもと別れることができず、お互いに涙を流して離れる状況でした。Y ちゃんは、「お母さん、迎えに来る？」と聞きながら、不安な表情を見せながらも遊びに入ることができました。お母さんがゆっくり体を休めることができるようにと、1日保育としました。

[今後の関わり]

お母さんの涙を前に、第2子が生まれる前に十分に Y ちゃんに関わりたい、でも体が言うことをきかない、というやるせないお母さんの気持ち、お母さんと一緒にいたいと思いつつ、具合の悪い姿を見て、保育園にいなければならぬと自分の気持ちを抑えている Y ちゃんの気持ちが伝わり、何とか、力になりたい、何かできることはないかと強く感じました。笑顔で「いってらっしゃい」「いってきます」と挨拶できるような心のケア、心身ともに安定した中で出産を迎えられるように、保育園だからこそできる事を今後実施していきたいと職員の気持ちが一つになりました。

〈10月半ば〉

自分から喜んで室内に入り、元気に遊ぶようになりました。クラスの皆と散歩に出かけ長い距離を歩き、疲れも出たのか、自分から布団に入り、眠っ

てしまいました。

食事は、なかなか進まず、白飯は好んで食べますが、副食は箸でつつく程度です。

時々、不安な表情をのぞかせる事がありました。

[今後の関わり]

もっと、保育士と関わるなど、ケアの必要性を感じました。

(10月後半)

園に慣れ、泣く事も嫌がることもなく、笑顔で保育室に入っています。お母さんも家でゆっくり体を休めることができるのか、体調も良さそうです。連日 子どもと一緒に居ると、疲れからか体調が悪くなると話していました。

友達との関わりが見られてきました。Y くんとは何かといがみ合っていますが、手を出すことはありません。S ちゃんとはお昼寝の際、いつも隣同士で「キャッ キャッ」とはしゃいだり、会話を楽しんでいます。

3歳を過ぎ、主食のご飯を家からお弁当に入れて持ってくるようになりました。

自分で持ってくる弁当を食べることにより、食がすすむようになりました。

【連絡帳から】

毎日園を楽しみにしていて、明日は、あれをしよう、これをしようと考えているようです。「おだんご、こねこねしたいなあ」と言われるのですが粘土の事でしょうか。それが一番したい事ようです。

[今後の関わり]

体調が良くなってきたことにより、お母さんにも笑顔も見え始め、お互い笑顔で手を振って「いってきます」の挨拶をするようになりました。Y ちゃんも以前に比べ表情豊かに遊ぶ姿が見られています。今後、遊びの幅を広げたり、友達との関わりを深めるような働きかけをしながら、もっともっと、気持ちを表現できるような働きかけをしていきたいです。

(11月半ば)

お母さんは無事出産を終えました。祖母の送迎となり、Y ちゃんの周りの環境が変わったことで、表情が乏しくなりました。保育士の話しかけには笑顔を浮かべますが、常に保育士の側に居ることが多くなりました。友達との関わりも少なくなっています。

食欲もなくなり、介助をしても喉を通っていかない様子です。

[今後の関わり]

赤ちゃんが生まれたことを共に喜びながら、Y ちゃんの心をよみとり、それに合った対応ができるようにしていく事が大切です。特定の保育士が関わるようにし、安心して生活できる環境を整えていきます。

食事では、無理なく雰囲気作りをしながらすすめています。

〈11月後半〉

お母さんと赤ちゃんが家に戻ったことにより、Yちゃんの赤ちゃんがえりがはじまり、お母さんから、「今までできていた事をしなくなった、抱っこやおんぶをしたがる、夜泣きが始まった、赤ちゃんが二人いるようだ」との新たな悩みが連絡帳に書かれていました。

[今後の関わり]

Yちゃんには、赤ちゃんにお母さんを奪われたような寂しさがあること等を伝えながら、Yちゃんに今まで以上に接してあげる事の大切さを伝え、園でも十分Yちゃんとの関わりをもちながら、気持ちを受け止め、安心して過ごせる環境を整えていくようにしました。

〈研究を終えて〉

保育園で行われたお楽しみ会に家族揃って参加していただきました。お母さんは生まれたばかりの赤ちゃんを抱っこしての参加です。Yちゃんは、家族から笑顔で離れ、ステージに上がり、楽しそうに踊っていました。それを見ている両親は目を細め、娘の成長に感動していたようです。最後には、家族揃って記念撮影を行い、幸せそうな表情に私たちも喜びを感じました。

引き続き、非定型の一時保育を利用しており、笑顔で登園し保育園生活を楽しんでいます。

様々な環境の変化で、Yちゃんの成長、そして家族が一つステップアップできた数ヶ月だったように思います。

・M (H14. 11. 生まれ) 第1子

〈一時預かり利用理由〉

両親、就労のため

〈9月前の様子〉

0歳から一時預かりを利用していました。朝は大泣きで親と離れますが、日中は元気に遊んでいます。眠くなると激しく泣き抱っこやおんぶも拒否、散歩車で散歩をしながら入眠となります。

〈9月初め〉

保護者との会話の中で、家ではおしゃぶりを使用しているとの事。

[今後の関わり]

園生活に慣れ、保育士との信頼関係が持てるようになるまで、家庭での午睡と同じようにおしゃぶりを持って来て貰う事にしました。

〈9月半ば〉

日中は、笑顔で遊んでいます。眠くなるとやはり激しく泣き、おしゃぶりをしながら散歩車で眠り、布団にうつす日が続きました。

〈10月〉

保育士との信頼関係ができてきたことで、絵本を読んだり、子守唄を歌いながら、長時間要しながらも、安心して布団で眠るようになってきました。日中の賑やかな時間帯はなかなか自己表出できずにいますが、まわり子ども達が寝始めた頃、言葉を沢山話しながら、一人遊びを楽しんでいます。

[今後の関わり]

一人遊びを見守りながら、必要に応じて声をかけ、遊びの充実を図りました。日中は、どこか遠慮がちな面も見られるので、場面に応じて話しかけふれあいながら遊ぶなど、もっと保育士との関係が深くなるように接していきました。

〈11月〉

笑顔で登園。一緒に来たお父さんに笑顔で手を振ると、保育士の前に立ち「おはよう」と声をかけられるのを、嬉しそうに待っています。家では、自分の思い通りにならないと泣きじゃくると連絡帳を通して相談がありました。

[今後の関わり]

保育士に声をかけられたり、一緒に遊ぶことを心待ちにしている姿が多々見られました。そのサインを見逃さず、十分接していけるような保育を心がけました。

Mちゃんが、自我の芽生えの大切な時期であることを話しながら、欲求を言葉にかえながら気持ちをくみとり、成長を共に見守り、応援していきたい事を伝えました。

〈研究を終えて〉

非定型的保育を継続しています。

家に帰り、その日の出来事をお母さんに嬉しそうに話しているとの事。

様々な歌を口ずさんだりする中で、子どもの成長に感動したと連絡帳に書かれていました。保育園側としてもとても嬉しい事です。

寝る前には、おしゃぶりを必要としています。歯の成長も考え、少しずつ離す事ができればと、絵本を見たり歌を歌ったりしています。無理せず、心の安定を図りながら今後も見守っていきたいです。

・S (H14. 10. 生まれ) 第3子 (5歳の双子の兄) 毎週火曜日利用

〈一時預かり利用理由〉

リフレッシュ

〈9月後半〉

お母さんと離れる際に激しく泣き、抱っこ、おんぶも拒否、食事も食べよ

うとしません。泣き疲れ抱っこで入眠し、布団にうつしますが 30 分で目覚め、再び泣き出しました。迎えに来たお母さんを見て、安心感から激しく泣きながら抱っこを求めました。

[今後の関わり]

お母さんの育児の疲れが少しでも和らぐようにケアする事の必要性を感じながら、不安定になっている S くんのをくみとり、接していかなければならない重要性を強く感じました。

〈10 月初め〉

登園時は激しく泣く日が続いていますがおやつ後あたりには泣き止み、絵本を見たり、ママごとの皿を手にしたりと少しずつ遊び始めるようになりました。昼食は、少しずつ食べるようになり、椅子に自分から座っています。

[今後の関わり]

保育士に対し、まだ警戒心があるため、話しかけたりすると、後ずさりする姿がある事から、静かに見守りながら、保育していく事にしました。

又 S くん好きな遊びや、家での姿など知る事で少しでも距離を縮めたなどの理由から、連絡帳を使用する事にしました。

〈10 月後半〉

朝は相変わらず激しく泣きますが、1 対 1 で関わり様々な物に目が向けられるよう、又気持ち紛れ落ち着くように接する事で、おやつ前に泣き止み、皆と一緒におやつを食べられるようになりました。遊びでは、戸外で手をつないで散歩をしたり、砂遊びに夢中になる姿も見られてきました。が、笑顔はまだ見られません。自分から友達と関わろうとはしませんが、まわりの子が話しかけたり、おもちゃを手渡す姿が見られるようになってきました。

午睡は布団を敷くと一人で眠ります。しかし、少しの身動きもせず、布団に入っている事からまだまだ園での緊張感があり、心を解放してくれないようです。

[今後の関わり]

今まで何人もの一時保育の子どもを見てきましたが、慣れるのにここまで時間がかかる子は初めてのようです。果たしてお母さんのリフレッシュの為とはいえ、S くんにとって今の環境はどうあるべきなのか、もしかするとしばらく保育園とは離れた方が良いのではないか……。と悩み話し合いました。専門職としての知識や経験を活かしながら今一度気持ちにゆとりを持って S ちゃんと接したい。との気持ちで原点に戻り、スタートしました。

〈11月初め〉

登園し、ひと泣きで泣き止み、しばらく抱っこしながら絵本を見たり、ままごと玩具で遊ぶと、自分から立ち上がり、一人遊びを楽しみ始めました。友達に玩具を手渡されると笑顔を見せています。

散歩を喜び散歩車の中では、独り言をつぶやいています。チャンスと思い話しかけると口を閉ざしてしまいました。失敗・・・・・・・・。きれいな枯葉を拾い皆に手渡すと“ほしい”と手を出して意思表示。手渡すと笑顔はないものの大事そうに持っています。お母さんの迎えを見つけると枯葉を保育士に返そうとしたので「お母さんにプレゼントしようか」と話すと“うん”と大きくなずき、向かってくるお母さんに枯葉を持った手を伸ばしました。「きれいだね」とお母さんに声をかけられとても嬉しそうです。「さようなら」と言うときずかしそうにお母さんの胸に顔をうずめましたが、車に向かうお母さんの背中越しに顔を出し手を振っていました。緊張は少しずつとれてきているようで、お母さんの迎えを見て泣く事はなくなり、喜びを表しています。今日1日でこの変化。わずかながらSくんの心の中に近づけたようでとても嬉しい1日でした。

[今後の関わり]

子ども同士の関わりが自然と出てきている事で、Sくんの気持ちが安定してきているようです。無理なく関われるようにさりげなく働きかけ遊びの楽しさ、人とのふれあいで安心できるように見守っていきます。

〈11月半ば〉

一人遊びを楽しむ姿から、関わりをもとうと自分から働きかける姿が見られてきました。広告紙での遊び、小さく丸めた紙を持ってきて保育士に手渡してくれました。「ありがとう」と声をかけた後「キャッチボールしよう」と声をかけ「ポン」と投げるとSくんからも投げ返し何度も楽しみました。表情も日に日に和らいできました。

降園の際、今日の出来事をお母さんに話すととても嬉しそうに話を聞いていました。「朝、駐車場に着くと、分かって泣き出します。でも、慣れてきているのですね。」と話してくれました。

〈研究を終えて〉

Sくんは、タオルが折れ曲がっていたり、テーブルが曲がっていると丁寧に直したりと、神経質な面が見られ内面もとても繊細な子どもです。環境の変化にもなかなか順応できなかったりと、保育園生活はSくんにとって苦痛だった事でしょう。反面、お母さんは、子どもをあずけることで、子育てが楽になり、イライラもなくなった、と話していました。

お母さんの心のケアができた今、Sくんの心の安定が重要視されます。

一時預かりが始まって3ヵ月。まだまだ、心を開くには時間がかかりそうですが、少しの変化をも見逃さずプラスに捉え、心が一つになる事を望みながら保育をしていこうと思います。

・R (H14. 8. 生まれ) 第1子

〈一時預かり利用理由〉

リフレッシュ、仕事

〈今までの姿〉

4月まで当園に入園していましたが、第2子出産を控え退園となりました。7月から一時預かりで登園するようになりましたが、母親と離れがたく大泣きとなりました。少しずつ園生活に慣れ、泣かずに登園し友達と関わって遊ぶようになってきています。

〈9月半ば〉

お母さんが急に仕事に出る事になり、4ヶ月の妹も一時預かりを利用。妹と別部屋になる事が嫌なのか、登園時激しく泣くようになりました。しばらく抱っこをして落ち着きますが、友達の持っている物を次々奪い取ったりと精神面で不安定になっている様子が伺えます。

〔今後の関わり〕

Rくんをとりまく環境が変わった事を敏感に感じ取っている為、心のケアと遊びの充実を図りながら保育を行いました。

〈10月初め〉

泣きながら登園。車の中でのおもしろが数日続いているとの事です。お母さんの仕事再会と同時に日中のおもしろが多くなっています。午睡も嫌がり「やだ」を連発するようになりました。

〔今後の関わり〕

見守りながら無理せずトイレに誘うようにしました。お母さんと一緒にいたいという気持ちを優しく受け止めながら、気持ちを言葉にかえ、思いをくみとるようにしました。

〈10月後半〉

クラスが移動になり、再び不安定な状態となりました。前クラスに行きたいと泣いたり自分で移動したりする姿がありました。

〔今後の関わり〕

前クラスに戻りたい時にはそれを満たしてあげ、少しずつ新しいクラスに慣れることができるよう、2クラスで連携をとるように話し合いました。

又、前担任と一緒に新しいクラスでおやつを食べたり遊んだりする中で不安なく進級できるように配慮しました。

〈11月半ば〉

新しいクラスにとけこみ、友達との遊びも楽しめるようになりました。以前同じクラスだった Y さんと戦いごっこをするなど、笑顔で遊ぶ姿が多く見られます。遊びが楽しく登園するとお母さんに手を振る間も惜しんで遊びに走って行くまでになりました。

〈研究を終えて〉

クラス移動に関し、R さんの気持ちを優先すれば、この時期ではない方が良かったのでは……と反省しています。

指しゃぶり、爪を噛むといった姿が見られるとの事。下の子が生まれ、保育園に来るようになり、お母さんの仕事が急に始まり、クラスが変わりと R4 さんにとっても目まぐるしく環境が変わり、辛い事や我慢する事が沢山あったのでしょうか……。もっと心のケアをしなければと強く感じました。

*保護者、地域社会等の反応、評価

一時預かりの利用者、契約者は、年々増加傾向にあります。他保育園に一時預かり保育をお願いしたところ、人数制限で断られた為に、当園に来たという利用者もありました。保育士の配置が可能な限り、緊急の一時保育等を主に対応できるように努めています。又、人数が増える事により、保育が疎かになる事のないようにする事で、保護者や、地域からも喜ばれ、安心して預けられる、又、預けたいとの意見を頂いています。

*職員の体制、協力

各クラス、子どもの人数による保育士の配置をプラス 1 とし、子どもへの関わりや、保育が手薄にならないような体制をとっています。時には、一時預かりの子どもに 1 対 1 で 1 日中関わらなければならない事もあります。そのような場合でも職員間で連携をとり、共通理解のもと、動揺することなく保育がすすめられています。在園している子ども達と同じように、保護者との関わりも大切にしながら、日々保育にあたっています。

*担当職員の意見

・子どもは一人一人が違った環境で生活しています。保育園の雰囲気ですぐ馴染める子どももいますが、0、1 歳児の中には静かな環境を好む子どもが多いようです。少しでも心の安定を図れるように、落ち着ける別部屋を用意するなど、環境の見直しの必要性を感じました。この研究を通して子どもをとりまく環境の変化が激しい中、少しでも子育ての手助けができるのであれば、この一時預かり保育はより良い事業であると感じました。一方で、こんなにも子どもを育てる事に、孤立感、不自由さを感じ

じている母親がいる事を改めて知ることとなりました。一時預かり保育の利用者の中には、お母さん自身のリフレッシュのために利用している保護者が少なからずいて、驚いています。困った時に頼れる人が身近に居ない、そんな時こそ子育てのプロである私たちが必要なのだと改めて感じました。

・核家族が増え、祖父母に育児の相談ができなかったり、少子化により子ども同士での遊び相手が居なかったりと、子育てにストレスを感じている親が増えている現在、保育園はそのような親も含めて地域から求められる保育園にしていかなければならないと感じています。このような社会の中、一時預かり保育は、大切な役割を果たしています。一時保育を利用する事で保育園に悩みを相談したり、リフレッシュされ、子育てに余裕が持てるのであれば、問題になっている虐待も減ってくるのではないのでしょうか。

実際に保育を行う現実問題として、一時預かりの子どもが入る事で、保育士が1人対応に追われたり、在園児も落ち着かない状況になってしまうこともあります。研究を通し、このような問題点をどのように解決したらよいか、子ども達の寂しさをどのように埋めてあげ、楽しさへと移行していくのかを探る事ができました。今後も研究の成果を活かし一時預かり保育に取り組んでいきたいと思っています。

研究結果のまとめ、今後の課題と展望

現代社会のニーズに応える一つの事業として始められた一時預かり保育、今回の研究を通し、子育て支援のあるべき姿を今一度考え直す必要があるのではないかと感じています。緊急一時保育は急病などやむを得ない場合、非定型方一時保育は両親の就労やリフレッシュ等のため、それぞれ利用されています。利用者からの感謝の気持ちを嬉しく受け止めながらも、この事業が母親個人の気持ちだけで利用されては、今後の子育てに悪影響を及ぼしかねません。例えば、「こんな便利なものがあるなら、子どもをあずけて買い物に行こう、友達と食事をしよう、夫婦で遊びに行こう」などのようにリフレッシュの枠を超え、このような理由での利用が週に数回行われるようでは、子育てを支援していく事にはならないでしょう。又、「料金が半日でも1日でも同じ金額をとられるのであれば、用事は半日で済むけれども1日あずけよう」、現実にこのような考えのもとに一時保育を利用している家庭も少なくありません。料金の面では、金銭的な負担や子どもの思いを考慮し、現在私立保育園が定めている金額制を、時間割にするなど、協議会に働きかけながら進めていく必要があります。

一時預かり保育を始めとする子育て支援の根本にあるもの、それは子育ての楽しさや、関わり方を知らせながら、親子の愛着関係を築けるような働きかけをする事ではないでしょうか。我が子と一緒にいる事に幸せを感じられる、親子での時間が楽しく充実したものであって欲しいと願います。

その為に、私たち保育士のソーシャルワーカーとしての力量を発揮し、園における万全の保育体制を整え、保育士の資質の向上を図りながら、保護者の良き理解者として子育てを応援していきたいと 考えます。